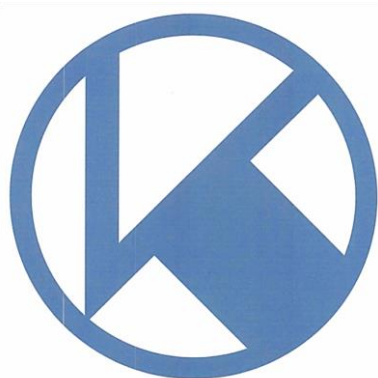


2021年度  
郡山健康科学専門学校  
講義概要



理学療法学科  
1年生

学校法人こおりやま東都学園

# 理学療法学科 2020・2021年度生 履修一覽

1年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活 社会の利害	法学	●
	医療倫理	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	情報リテラシー	●
	コミュニケーション論	●
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	●
	解剖学Ⅱ	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学実習	●
	運動学Ⅰ	●
	人体の構造と機能	●
	公衆衛生学	●
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	リハビリテーション医学	●
	医療入門	●
基礎理学療法学	基礎理学療法学	●
	理学療法演習Ⅰ	●
理学療法治療学	運動療法演習	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学実習	●
	生理学Ⅱ	●
	運動学Ⅱ	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	理学療法特論	●
基礎理学療法学	理学療法演習Ⅱ	●
	理学療法評価学	●
理学療法治療学	義肢・装具学	●
	日常生活技術論	●
地域理学療法学	神経系理学療法学Ⅰ	●
	生活環境論	●
臨床実習	見学実習	

3年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
基礎理学療法学	理学療法演習Ⅲ	●
	医療英会話	
理学療法管理学	理学療法管理学	●
理学療法評価学	理学療法評価学	●
理学療法治療学	義肢装具学演習	●
	物理療法学	●
	神経系理学療法学Ⅱ	●
	筋骨格系理学療法学	●
	小児発達系理学療法学	●
	呼吸・循環器系理学療法学	●
	日常生活技術演習	●
	スポーツ理学療法学	●
内部障害理学療法学	●	
地域理学療法学	地域理学療法学	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	
	在宅リハビリテーション実習	

4年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
基礎理学療法学	理学療法研究法	●
	理学療法マネジメント論	●
	総合演習	●
臨床実習	臨床実習Ⅱ	

# 基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
法学		菅原 好秀			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
国家の基本法である憲法と、私人間の日常生活における紛争解決のための民法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①法体系全体を、判例を踏まえて説明できることを目標とする。				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】法律を自らの力で考え貫く学生を望みます。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ガイダンス		日常における法とのかかわり、法の機能・分類、法の歴史。 日常における法の重要性を、事例とともに理解する。		個人
2	日本国憲法①		日本国憲法の法体系の特徴・機能、個人の尊重、三大原則。 個人の尊重と三大原則との関係を理解する。		個人
3	日本国憲法②		自由権(表現の自由、信教の自由を中心に)。 自由権について、判例とともに理解する。		個人
4	日本国憲法③		社会権(生存権を中心に)。 社会権の成り立ち、生存権をめぐる判例・学説の対立を理解する。		個人
5	日本国憲法④		幸福追求権・新しい人権、平等権。 新しい人権について、判例とともに理解する。		個人
6	日本国憲法⑤		人権規定のまとめ。 人権規定の判例を横断的に理解する。		個人
7	日本国憲法⑥		統治機構の概要、国会。 憲法の法体系における統治機構の位置づけや国会の仕組みを理解する。		個人
8	日本国憲法⑦		内閣、裁判所、地方自治、憲法改正。 内閣や裁判所の仕組みを理解する。		個人
9	民法①		総則(行為能力、契約の成立・有効要件、代理を中心に)。 総則について、事例とともに理解する。		個人
10	民法②		物権(種類、対抗要件)、債権(債務不履行、瑕疵担保)。 物権および債権について、事例とともに理解する。		個人
11	民法③		担保(人的担保、物的担保)、不法行為。 保証、担保物権、不法行為について、事例とともに理解する。		個人
12	民法④		家族法の概観、親族法(親等、婚姻、親子、扶養)。 親族法の制度概要を理解する。		個人
13	民法⑤		親族法(離婚、親権)。 離婚後の親権について、事例を踏まえて理解する。		個人
14	民法⑥		相続法(法定相続、遺言、遺留分を中心に)。 相続法について、事例とともに理解する。		個人
15	まとめ		憲法および民法のまとめ。 これまでの授業を振り返り、全体像を理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 70% 受講態度 30%	
【教科書】	渡辺信英編『日本国憲法 人権と福祉』(南窓社)				
【参考書】	講義において適宜指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習を心がけてください。			
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療倫理 ※ 実務経験のある教員の授業科目		橋本 雅郎		病院 (理学療法士) 25年勤務	橋本
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】 医療専門職に求められる行動の自律を理解するため、社会環境の変化と技術の進展に伴う医療、福祉、および研究における倫理、並びに倫理原則について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】 ① 各授業のテーマについて現状を説明できる。 ② 各授業テーマについてどのような課題があるのか説明できる。 ③ 各授業テーマの課題に対する自分の考えを述べることができる。				【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 考え抜く力	
【履修上の注意】 配布資料、ノートを持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	倫理とは		生命倫理の今日的課題について考える。 生命倫理の基本原則について説明できる。		グループ
2	インフォームドコンセント		臨床現場における医療者と患者関係について考える。 守秘義務について説明できる。		グループ
3	医療倫理		医療機関における臨床倫理について考える。 医療倫理の重要性について説明できる。		グループ
4	出生前診断		着床前診断、出生前診断について考える。 性別の選択、人工妊娠中絶の現状について説明できる。		グループ
5	生殖補助医療		生殖補助医療技術について考える。 生殖補助医療技術の問題点について説明できる。		グループ
6	遺伝子・ゲノム医療		遺伝子・ゲノム医療について考える。 遺伝子・ゲノム医療の課題について説明できる。		グループ
7	臓器移植		臓器移植について考える。 子供の臓器提供の現状について説明できる。		グループ
8	高齢者の医療、福祉		高齢者の医療と福祉について考える。 高齢者の医療と福祉をめぐる課題について説明できる。		グループ
9	エンドオブライフ・ケア		緩和ケアについて考える。 安楽死・尊厳死の現状について説明できる。		グループ
10	救急医療・災害医療		救急医療・災害医療における医療倫理について考える。 トリアージについて説明できる。		グループ
11	ロボット・AI		医療におけるロボットとAIについて考える。 マインドリーディングとプライバシーについて説明できる。		グループ
12	医学研究		動物・ヒトを対象とした医学研究について考える。 科学者の行動規範、不正行為、利益相反について説明できる。		グループ
13	医療情報		医療情報の保護と共有について考える。 医療情報の特性と範囲について説明できる。		グループ
14	公衆衛生		ヘルスプロモーションの視点から感染症対策について考える。 公衆衛生について概要を説明できる。		グループ
15	医療とジェンダー		医療とジェンダーについて考える。 ジェンダーの概念について説明できる。		グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 10%	課題の達成度	30%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	生命倫理と医療倫理(金芳堂) 生命倫理の教科書 ー何が問題なのかー (ミネルヴァ書房)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各授業のテーマごとに要点をまとめる。				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療倫理 ※ 実務経験のある教員の授業科目		橋本 雅郎		病院 (理学療法士) 25年勤務	橋本
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】 医療専門職に求められる行動の自律を理解するため、社会環境の変化と技術の進展に伴う医療、福祉、および研究における倫理、並びに倫理原則について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】 ① 各授業のテーマについて現状を説明できる。 ② 各授業テーマについてどのような課題があるのか説明できる。 ③ 各授業テーマの課題に対する自分の考えを述べる事ができる。				【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 考え抜く力	
【履修上の注意】 配布資料、ノートを持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	倫理とは	生命倫理の今日的課題について考える。 生命倫理の基本原則について説明できる。			グループ
2	インフォームドコンセント	臨床現場における医療者と患者関係について考える。 守秘義務について説明できる。			グループ
3	医療倫理	医療機関における臨床倫理について考える。 医療倫理の重要性について説明できる。			グループ
4	出生前診断	着床前診断、出生前診断について考える。 性別の選択、人工妊娠中絶の現状について説明できる。			グループ
5	生殖補助医療	生殖補助医療技術について考える。 生殖補助医療技術の問題点について説明できる。			グループ
6	遺伝子・ゲノム医療	遺伝子・ゲノム医療について考える。 遺伝子・ゲノム医療の課題について説明できる。			グループ
7	臓器移植	臓器移植について考える。 子供の臓器提供の現状について説明できる。			グループ
8	高齢者の医療、福祉	高齢者の医療と福祉について考える。 高齢者の医療と福祉をめぐる課題について説明できる。			グループ
9	エンドオブライフ・ケア	緩和ケアについて考える。 安楽死・尊厳死の現状について説明できる。			グループ
10	救急医療・災害医療	救急医療・災害医療における医療倫理について考える。 トリアージについて説明できる。			グループ
11	ロボット・AI	医療におけるロボットとAIについて考える。 マインドリーディングとプライバシーについて説明できる。			グループ
12	医学研究	動物・ヒトを対象とした医学研究について考える。 科学者の行動規範、不正行為、利益相反について説明できる。			グループ
13	医療情報	医療情報の保護と共有について考える。 医療情報の特性と範囲について説明できる。			グループ
14	公衆衛生	ヘルスプロモーションの視点から感染症対策について考える。 公衆衛生について概要を説明できる。			グループ
15	医療とジェンダー	医療とジェンダーについて考える。 ジェンダーの概念について説明できる。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 10%	課題の達成度	30%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	生命倫理と医療倫理(金芳堂) 生命倫理の教科書 一何が問題なのかー (ミネルヴァ書房)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各授業のテーマごとに要点をまとめる。				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会福祉学		阿部 正孝		一般	川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
私達が過ごしやすい社会を作り出すために求められている社会福祉について多面的に学びます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①変動する社会環境の中での社会問題を学ぶ ②高齢化・少子化における現代社会の性質を学ぶ ③人々が過ごしやすい社会の社会福祉を学ぶ				考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 知識・理解 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	社会福祉の理念と意義生活と福祉		少子高齢化と人口減少社会について学びます。		個人
2	社会福祉の理念と人権 基本的人権とノーマライゼーション		現代の福祉理念と社会福祉を支える諸原理を学びます。		個人
3	社会福祉・社会保障の意義と役割		社会保障制度の意義や機関を学びます。		個人
4	子ども家庭福祉1 少子化時代と子育て		少子化時代の子育て支援を学びます。		個人
5	子どもの家庭福祉2 子どもの成長と問題(児童虐待)		すこやかな成長の支援や課題を学びます。		個人
6	障害者福祉1 障害とは何か?		障害についての考え方をさぐります。		個人
7	障害者福祉2 身体障害・知的障害・精神障害		各障害の課題を学びます。		個人
8	高齢者福祉1 高齢者福祉と介護保険		高齢者の健康保持と介護サービスを学びます。		個人
9	高齢者福祉2 老人福祉施設と高齢者福祉の将来		高齢者の在宅サービスと認知症ケアを学びます。		個人
10	生活支援のための公的援助 我が国の社会保障制度の枠組み		公的扶助と社会保障制度を学びます。		個人
11	人間関係とコミュニケーション1 コミュニケーションの構築		コミュニケーションの意義・役割を学びます。		個人
12	人間関係とコミュニケーション2 コミュニケーションにおける人間関係の形成		援助における自己理解を学びます。		個人
13	社会福祉援助活動の概要		社会福祉の援助活動の概要を学びます。ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの活用。		個人
14	地域福祉の社会的支援制度 地域医療・教育・就労		多様な社会的支援制度を学びます。		個人
15	まとめ		振り返り		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		受講後は様々な社会問題や、地域社会の課題について述べられるようになることを期待します。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
統計学		野田 工			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ。データの分布に関する知識を身に付け、データの処理を習得し、推測と仮説検定法について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①データを整理・分析するために必要な統計学の基本的な考え方について理解する。 ②データの整理・分析手法を理解するための基礎を身につける。 ③母平均の推定・検定について理解する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	統計学の概説		統計の必要性、統計で用いられるデータの概要が理解できる		個人
2	データの表わし方		データの種類の概要が理解できるとともに、データをグラフや表で表わすことができる		個人
3	データの分布の代表値 1		データの分布の特徴(中心)を表わす代表値について理解できる		個人
4	データの分布の代表値 2		データの分布の特徴(拡がり)を表わす代表値について理解できる		個人
5	データ間の関係		2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる		個人
6	確率変数と確率分布		確率変数と確率分布について理解できる		個人
7	正規分布1		連続型確率分布である正規分布の定義が理解できる		個人
8	正規分布2		標準正規分布表を用いた計算について理解できる		個人
9	二項分布		離散型確率分布である一様分布、二項分布、ポアソン分布について理解できる		個人
10	母集団と標本		母集団と標本の違いについて理解できる		個人
11	区間推定1		点推定と区間推定の違いについて理解できる		個人
12	区間推定2		母分散が既知の場合と未知の場合の母平均の区間推定方法について理解できる		個人
13	仮説検定		検定の考え方、有意水準、第一種の過誤、第二種の過誤について理解できる		個人
14	母平均の検定		母平均の検定方法について理解できる		個人
15	まとめ		今までの講義内容を振り返ることにより、統計学に関する知識を身に付ける		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% レポート 40%	
【教科書】	はじめての統計15講 小寺平治 講談社				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		データの収集・代表値・相関係数・正規分布・基本統計量について計算する			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	



【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
物理学		梁取 春光		一般	川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
物理学の内容のうち、特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて学ぶ講義とまとめの演習					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①力学の基礎的な内容を理解することにより、生体での応用に結びつける力を養う				考え抜く力 知識・理解 論理的思考力	
【履修上の注意】電卓を使用しても良いが、期末試験では使用できない。各自ファイルを準備する。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	物理学の概要		物理学の学習にあたって 物理史概論		個人
2	物理学の基礎知識 I		単位系 三角関数の計算		個人
3	物理学の基礎知識 II		ベクトルの取り扱い方		個人
4	等速運動、等加速度運動		等速直線運動での速度・時間・距離の関係 等加速度運動での速度・加速度・時間・距離の関係		個人
5	力の表し方、つりあい		力をベクトルの矢印で表わす 力のつりあいを作図し立式する		個人
6	仕事		仕事の定義と計算		個人
7	力学的エネルギー		重力による位置エネルギーと運動エネルギー		個人
8	力学的エネルギー保存		力学的エネルギー保存の計算		個人
9	剛体の力学		剛体を回転させる力 モーメントのつりあいの計算		個人
10	モーメントのつりあい		モーメントのつりあいの演習		個人
11	生体におけるモーメント I		モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する		個人
12	生体におけるモーメント II		モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する		個人
13	同演習		問題演習により力をつける		個人
14	放射線の基礎知識		放射線の種類と性質 放射線の人体に対する影響		個人
15	総合演習		まとめ		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 70% 課題の達成度 30%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業内容の復習を行ってください。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
化学		廣重 淳雄			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
自然科学の重要な学問のひとつである「化学」を学ぶことにより、日常生活を豊かにしている製品のもつ物質の本質を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①医療関係に携わる学生に対し将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ばせる。 ②科学思考を養うと共に生命を尊重する態度を育てる。				考え抜く力 知識・理解 論理的思考力	
【履修上の注意】※ 講義時は、必ずB5またはA4サイズの大学ノート(横罫-A罫:7mm×30行)を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	化学	(1)物質の分類 1)混合物と純物質 2)化合物と単体 3)物質を構成する粒子 4)原子 5)原子量			個人
2	物質質量	(1) 物質質量 1)質量 2)体積 3)個数 (2) 原子の構造 (3)八偶子説			個人
3	原子力発電と原子爆弾	(1)原子力発電 1)放射性同位元素 2)放射線 3)原子量発電 4)放射性物質 (2)原子爆弾			個人
4	原子を構成する粒子	(1)原子を構成する主な粒子 (2)主な素粒子(基本物質) 1)中間子 2)中性微子			個人
5	化学の法則	(1)化学の主な法則 (2)化学の主な法則(練習問題)			個人
6	イオン	(1)イオンとイオンの生成 (2)単原子イオンと多原子イオン 1)イオンの価数 (3)最外殻電子と価電子 (4)周期律			個人
7	化学結合	(1)イオン結合とイオン結晶 (2)金属結合と金属結晶 (3)共有結合と共有結合の結晶			個人
8	酸と塩基	(1)酸と塩基 1)定義と性質 2)酸塩基の強弱 3)水の電離平衡 (2)pH (3)中和反応と塩 (4)塩の加水分解 (5)塩の液性			個人
9	緩衝液	(1)緩衝液 (2)緩衝液の作用			個人
10	溶液と調整	(1)パーセント濃度 (2)モル濃度 (3)規定濃度 (4) (A+B) (A:B) と (A→B) (5)濃硫酸の希釈法			個人
11	参加と還元	(1)酸化と還元 (2)酸化数 (3)酸化剤・還元剤 (4)ボルタの電池 (5)電気分解と融解塩電解			個人
12	金属の性質	(1)金属のイオン化傾向 (2)金属の性質 (3)錆とメッキ (4)合金			個人
13	水の硬度	(1)軟水と硬水 (2)硬度 (3)浸透圧 1)半透膜 2)細胞の成分 3)透析 (4)生理食塩水			個人
14	有機化学	(1)有機化合物 (2)高分子 1)合成高分子 (3)重合 1)付加重合 2)縮合重合 (4)高分子の構造と性質 (5)プラスチック (6)プラスチックの利点と欠点			個人
15	繊維	(1)天然繊維 1)動物繊維 絹・羊毛 2)植物繊維 綿・麻 (2)化学繊維 1)合成繊維 2)再生繊維 3)半合成繊維 4)無機繊維			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 レポート	90% 10%	
【教科書】	化学 I・II の新研究—理系大学受験—				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業内容の復習を自分で作成したノートを中心に行ってください。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報リテラシー		櫻村 孝憲		一般	櫻村
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
周辺機器を含むコンピュータハードウェアの取扱い, 電子メール・インターネットの使用方法・マナー, ファイルやフォルダの操作, 文章作成ソフト・プレゼンテーションソフトの使用方法を講義および演習で習得する.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①医療, 福祉分野や社会における情報の取り扱い方を理解する ②インターネットの利用マナーや危険性を理解する ③文章作成ソフトでレポート作成ができるようになる ④プレゼンテーションソフトでプレゼン資料作成およびプレゼンができるようになる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】 パソコンが持参できる場合は, 可能な限り持参すること(10~15回)					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	コースオリエンテーション		科目の概要について理解する		個人・グループ
2	医療と情報		医療における情報の役割, 取り扱い方を理解する(事例検討を含む)		個人・グループ
3	医療と情報		医療における情報の役割, 取り扱い方を理解する(事例検討を含む)		個人・グループ
4	個人情報		医療における個人情報の役割, 取り扱い方を理解する(事例検討を含む)		個人・グループ
5	情報モラル		ネット被害, SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)		個人・グループ
6	情報モラル		ネット被害, SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)		個人・グループ
7	情報モラル		ネット被害, SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)		個人・グループ
8	情報モラル		ネット被害, SNSにおけるトラブルを考える(事例検討を含む)		個人・グループ
9	研究倫理		医学系研究に関する倫理について考える		個人・グループ
10	インターネットによる検索		文献検索の仕方及びホームページのサーチエンジンの利用		個人・グループ
11	ワープロの操作		ワープロの基本操作		個人・グループ
12	表計算ソフトの操作		表計算ソフトの基本操作		個人・グループ
13	プレゼンテーションソフトの操作		プレゼンテーションソフトの基本操作		個人・グループ
14	統計ソフトの操作		基本的な統計手法を理解する		個人・グループ
15	まとめ		その他のソフトウェアの紹介		個人・グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 受講態度 40%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		インターネットなどを用いて, 次回の講義に該当する内容を予習しておくこと. キーボード操作が必須となるため, 練習しておくこと.			
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
コミュニケーション論		橋本 雅郎			一般 橋本
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
医療従事者に求められるコミュニケーション能力を養うため、グループ(またはペア)での体験学習を行う。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 自分の考えを整理し要点を伝えることができる。 ② 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 ③ 相手の意見を尊重して聞くことができる。 ④ 相手の意見を正しく理解して解釈することができる。 ⑤ 他者と協働して意見をまとめることができる。				チームで働く力 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】 配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	自己の再発見		自分自身を様々な側面から見つめてみる。 自分について新たな発見をする。		グループ
2	他者理解 ①		一つのルールに従って行動する。 メンバー同士の関わりについて気付く。		グループ
3	他者理解 ②		大切にしていることに順位をつける作業を行う。 自分や他者の大切にしているものの多様性について気付く。		グループ
4	多様性		メンバーと協力しながら作業する。 助け合いの気持ちを持つ。		グループ
5	双方向コミュニケーション ①		一方向と双方向のコミュニケーションを体験する。 コミュニケーションのあり方について気付く。		グループ
6	双方向コミュニケーション ②		情報をわかりやすく伝え合い、順番を確認する作業を行う。 意思疎通を図る大切さに気付く。		グループ
7	傾聴 ①		傾聴的な聴き方の姿勢やスキルを考え体験する。 聴き手の姿勢次第で話相手の気持ちが変わることに気づく。		ペア
8	傾聴 ②		対応を分担した役割に応じて話し合いを行う。 対応の違いにより相手がどのように感じるかについて気付く。		グループ
9	ホスピタリティー・マインド ①		目隠しをした相手をサポートをしながら歩行する。 相手への心配りについて気付く。		ペア
10	ホスピタリティー・マインド ②		望ましい声掛けとは何かについて話し合いを行う。 相手に寄り添いう気持ちで話を聞き自分の思いも伝える。		グループ
11	自己主張 ①		相手の発言に対し自分の気持ちをさわやかに伝える。 相手も受け入れができる伝え方について気付く。		ペア
12	自己主張 ②		テーマの是非について互いの主張を説明しあう。 相手が受け入れるように伝える際の相手との関係性に気づく。		グループ
13	合意形成 ①		情報をまとめながら行動日程を明らかにする。 意思決定や協力のありようについて気付く。		グループ
14	合意形成 ②		情報をまとめつつ目的にまでの道順を明らかにする作業を行う。 意思決定や協力のありようについて気付く。		グループ
15	メンバーシップ		ある場所の位置関係や配置を情報をまとめながら明らかにする作業を行う。 様々なリーダーシップのありようについて気づく。		グループ
期末試験	レポート	評価方法	レポート 30%	授業への貢献 30%	課題の達成度 30% 受講態度 10%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		体験学習を通して気づいたことや、日常の中で活かせることについてまとめる。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保健体育(1/2)		十文字 雄一			川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
教育内容を人間と生活に位置付け、体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考え、前向きに生きる力に繋げていく。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動能力を高めることができる。 ②簡易ゲームを通してチームワークとコミュニケーションスキルを培うことができる。 ③健康寿命の維持や感染症について理解を深め、自己の健康管理に繋げることができる。 ④現代的なリズムのダンスに触れ、リズム感を養うことができる。				前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーションスキル 知識・理解	
【履修上の注意】運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ガイダンス レクリエーション種目・球技		生涯スポーツの理解と銃内容について確認する。 ストレッチ体操・縄跳び・フライングデスク・バレーボール(共に基礎練習を行う)		個人・グループ
2	レクリエーション種目 バレーボール		ストレッチ体操・縄跳び・ドッジビー(簡易ゲーム)及びバレーボール(簡易ゲーム)を競い合う。		個人・グループ
3	レクリエーション種目 バレーボール 到達度確認		ストレッチ体操・縄跳び・ドッジビー(簡易ゲーム)を楽しむ。バレーボール(到達度確認)に力を注ぐ。		個人・グループ
4	現代社会と健康 (教室授業)		健康寿命とは何か。高齢者の脳のDVDを鑑賞し、高齢者の健康問題について考える。		個人・グループ
5	運動遊び バレーボール 簡易ゲーム		ストレッチ体操・縄跳び・座り鬼で敏捷性のスキルアップを図り、バレーボール(簡易ゲーム)を競い合う。		個人・グループ
6	長縄跳び 卓球・バドミントン		ストレッチ体操・長縄跳びで持久力アップを図る。卓球・バドミントンでラリーを続けられるよう楽しむ。		個人・グループ
7	卓球 バドミントン		ストレッチ体操・縄跳びを丁寧に集中して行う。卓球・バドミントンのゲームを楽しむ。		個人・グループ
8	卓球 到達度確認 バドミントン 到達度確認		ストレッチ体操・縄跳びを集中して行う。卓球・バドミントン(到達度確認)を全力で行う。		個人・グループ
9	センチナリアン (教室授業)		超高齢者と呼ばれる人の秘密とは何かを探る。健康で幸せな人生設計を考える。		個人
10	ヒップホップ バスケットボール		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップを3分の1迄覚える。バスケットボール(簡易ゲーム)を行う。		個人・グループ
11	ヒップホップ バスケットボール		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップを3分の2迄覚える。バスケットボール(簡易ゲーム)を楽しむ。		個人・グループ
12	エイズとその予防 (教室授業)		エイズウイルス 症状・診断治療について理解する。感染予防と最先端の治療についての知見を得る。		個人
13	ヒップホップ バスケットボール 到達度確認		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップの完成と踊り込みを行う。バスケットボール(到達度確認)に集中する。		個人・グループ
14	ヒップホップ 到達度確認 バスケットボール		ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(到達度確認)に力を注ぐ。バスケットボール(簡易ゲーム)を楽しむ。		個人・グループ
15	ニュースポーツ バスケットボール		ストレッチ体操・縄跳び・インディアカのラリーを楽しむ。バスケットボール(簡易ゲーム)で互いに競い合う。		個人・グループ
期末試験	実施しない		評価方法	筆記試験 70% 課題の達成度 10%	レポート 20%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実施種目の個人練習(復習)と課題レポートの作成に力を入れる。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
保健体育(2/2)		十文字 雄一			一般 十文字	
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2	
【授業の概要・目的】						
<p>体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考えていく。</p>						
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】		
<p>①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動能力を高める。          ②簡易ゲームを通してチームワークとコミュニケーションスキルを培う。          ③高齢者・障がい者でもできるスポーツを通して、視野を広げる。</p>				<p>コミュニケーションスキル          知識・理解</p>		
【履修上の注意】		体調に注意し参加すること				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法	
1	バレーボール	バレーボールの競技特性を理解する。 チームワークとコミュニケーションスキルを向上させる。			グループ	
2						
3	バスケットボール	バスケットボールの競技特性を理解する。 チームワークとコミュニケーションスキルを向上させる。			グループ	
4						
5	フットサル	フットサルの競技特性を理解する。 チームワークとコミュニケーションスキルを向上させる。			グループ	
6						
7	バドミントン・卓球	バドミントン・卓球の競技特性を理解する。 チームワークとコミュニケーションスキルを向上させる。			グループ	
8						
9	フライングディスク	フライングディスクの競技特性を理解する。 チームワークとコミュニケーションスキルを向上させる。			グループ	
10						
11	体育イベントの企画	体育イベント開催に向け役割分担、実施内容の検討をおこなう。開催に向け協力し準備する。リーダーシップ、メンバーシップを向上させる。			グループ	
12						
13	イベントの実践	体育イベント成功に向けてお互いが助け合い実施する。 リーダーシップ、メンバーシップを向上させる。			グループ	
14						
15						
期末試験	実施しない	評価方法	授業への貢献	50%	受講態度	50%
【教科書】	特に指定しない。					
【参考書】	特に指定しない。					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		健康管理と定期的な運動を心がけてください。				
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
外国語		Robert Holt			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). ② Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.				知識・理解 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性	
【履修上の注意】 Students will be expected to do homework as and when set. Students will need a dictionary in class.					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	1A - Hello	Verb be (singular): I and you. Numbers 0-10; days of the week.			個人
2	1B - Where are you from?	Verb be (singular): He, she and it. Countries.			個人
3	Practical English: How do you spell it?	The alphabet and spelling. Spelling practice.			個人
4	2A - We aren't English. We're American.	Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.			個人
5	2B - What's your phone number?	Wh- and How questions with be. Phone numbers; numbers 11-100.			個人
6	3A - What's in your bag?	Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary - small things.			個人
7	3B - Is that a hat?	This / That / These / Those. Vocabulary - Souvenirs.			個人
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?	Saying and understanding prices. The use of money and numbers.			個人
9	4A - Family and friends.	Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary - people and family.			個人
10	4B - Big cars or small cars?	Adjectives. Colours and common adjectives.			個人
11	5A - Breakfast around the world.	Present simple ( + / - ): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.			個人
12	5B - A very long flight.	Present simple ( ? ): I, you, we and they. Common verb phrases 1.			個人
13	Practical English: What time is it?	Telling the time. Saying how you feel.			個人
14	6A - She works for Armani.	Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.			個人
15	6B - A day in my life.	Adverbs of Frequency. A typical day.			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	English File - Beginner Student's Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業内容の復習を自分で作成したノートを中心に行ってください。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

## 專門分野



【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学 I (1/2)		十文字 雄一		一般	十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
人体を構成する骨・関節・筋・腱・靭帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。骨モデルを使用し、立体的にイメージできるよう学習していく。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨モデルを使用し、全身の骨について説明することができる。 ②骨・関節・靭帯・腱・筋の構造と機能について説明することができる。 ③神経・血管の構造と機能について説明することができる。				知識・理解	
【履修上の注意】		解剖学の本を必ず持参すること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	解剖学とは	解剖学を学ぶ意義・解剖学用語について理解する。			個人
2	人体の発生	胚子期および胎児期における主要な形態変化を学び、どこから分化するかを理解する。			個人・グループ
3	骨について	骨について理解する。 骨の構造・機能・構成成分・形状分類について学習する。			個人・グループ
4	関節・靭帯・筋について	関節・靭帯・筋の基本構造について理解する。 関節の構造・靭帯・筋の基本構造について学習する。			個人・グループ
5	上肢帯と上腕の骨	鎖骨・肩甲骨・上腕骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
6	前腕と手の骨	尺骨・橈骨・手根骨・中手骨・指骨の構造について理解する。骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
7	脊柱	脊柱を構成する骨(頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾骨)の構造について理解する。骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
8	胸骨・肋骨	胸郭を構成する胸骨・肋骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
9	下肢帯と下肢の骨	寛骨・仙骨・大腿骨の構造について理解する。 骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
10	下腿と足の骨	脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾骨の構造について理解する。骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
11	上肢帯・上肢・手の関節	肩関節・肘関節・手関節・手の関節の構造と機能について理解する。各関節の構造と機能について学習する。			個人・グループ
12	下肢帯・大腿の骨	骨盤(寛骨・仙骨・尾骨)・大腿骨・膝蓋骨の構造とについて理解する。標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
13	下腿・足の骨	脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾骨の構造について理解する。骨標本を用いて各骨の部位の名称について学習する。			個人・グループ
14	股関節・膝関節について	股関節・膝関節の構造と機能について理解する。 各関節の構造と機能について学習する。			個人・グループ
15	足の関節について	足関節・足の関節の構造と機能について理解する。 各関節の構造と機能について学習する。			個人・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 小テスト 20%	課題の達成度 20%	
【教科書】	グレイ解剖学原著第3版				
【参考書】	プロメテウス解剖学 コアアトラス 第二版/ 標準解剖学 図書室にも様々な解剖書がありますので適宜参考にしてください。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	骨モデルを積極的に使用し、復習してください。				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学 I (2/2)		十文字 雄一			一般 十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
人体を構成する骨・関節・筋・腱・靭帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。骨モデルを使用し、立体的にイメージできるように学習していく。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨モデルを使用し、全身の骨について説明することができる。 ②骨・関節・靭帯・腱・筋の構造と機能について説明することができる。 ③神経・血管の構造と機能について説明することができる。				知識・理解	
【履修上の注意】		解剖学の本を必ず持参すること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	上肢帯の筋	上肢帯に付着する筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用し説明できるように学習する。			個人・グループ
2	上腕の筋	上腕に付着する筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
3	前腕の筋	前腕に付着する筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
4	手の筋	手内在筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
5	下肢帯の筋	下肢帯に付着する筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
6	大腿の筋	大腿に付着する筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
7	下腿の筋	下腿に付着する筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
8	足の筋	足内在筋について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
9	脊柱と胸郭の構造と機能について	脊柱と胸郭の構造と機能について理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるように学習する。			個人・グループ
10	体幹・胸郭の筋	体幹に付着する筋・呼吸運動における胸郭と筋の働きについて理解する。筋の起始・停止について骨モデルを使用し学習する。			個人・グループ
11	頭蓋骨	頭蓋骨(脳頭蓋・顔面頭蓋)の構造と機能について理解する。脳神経・血管の交通する頭蓋の孔および管について学習する。			個人・グループ
12	頭部の筋	頭部に付着する筋について理解する。表情筋・咀嚼筋について起始・停止・作用・神経について学習する。			個人・グループ
13	上肢帯・上肢の神経	上肢帯・上肢を支配する神経について理解する。上肢帯・上肢を支配する神経の分布・走行・領域について学習する。			個人・グループ
14	下肢帯・下肢の神経	下肢帯・下肢を支配する神経について理解する。下肢帯・下肢を支配する神経の分布・走行・領域について学習する。			個人・グループ
15	全身の血管の走行	全身の血管の分布と走行について理解する。全身の静脈・動脈の血管の分布と走行について学習する。			個人・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 小テスト 20%	課題の達成度 20%	
【教科書】	グレイ解剖学原著第3版				
【参考書】	プロメテウス解剖学 コアアトラス 第二版/ 標準解剖学				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		骨モデルを積極的に使用し、復習してください。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学Ⅱ(1/2)		安中 聡一		一般	川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
神経系の組織, 構造, 機能について理解し, 臨床的な思考の基盤となる正しい知識を習得する.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①中枢神経系と末梢神経系の主な構成要素を説明できる. ②大脳皮質の機能局在について理解し, 説明できる. ③脳神経と脊髄神経の構造, 機能について理解し, 説明できる.				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 態度・志向性	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	神経系概要		中枢神経系と末梢神経系, 神経系を構成する細胞, 神経線維の区分について理解する.		個人
2	脊髄		脊髄の構造, 脊髄と脊髄神経, 運動神経と感覚神経の経路, ベルマジャンディの法則について理解する.		個人
3	運動系・感覚系伝導路		脊髄の主要な伝導路(上行路, 下行路)について理解する.		個人
4	脳幹		脳幹を構成する延髄, 橋, 中脳について, 構造を理解する. 脳幹の機能について理解する.		個人
5	小脳・間脳		小脳・間脳の構造および機能について理解する.		個人
6	テスト①		1~5回の講義の内容の筆記試験を行う.		個人
7	大脳皮質・大脳髄質		大脳皮質の構造, 主要な部位の名称を理解する. 大脳皮質の機能局在を理解する.		個人
8	大脳皮質・大脳髄質		大脳髄質の構造, 主要な線維を理解する.		個人
9	大脳基底核		大脳基底核の構造および機能について理解する.		個人
10	大脳辺縁系		嗅脳と辺縁葉の関連構造および機能について理解する.		個人
11	脳室系と髄膜 脳脊髄液の循環		脳室および髄膜の構造を理解する. 脳脊髄液の循環経路を理解する.		個人
12	テスト②		7~11回の講義の内容の筆記試験を行う.		個人
13	脳の血管分布		大動脈から脳までの循環経路を理解する. 脳動脈の名称, 灌流領域を理解する.		個人
14	脊髄神経と脳神経		皮膚知覚帯(デルマトーム)の領域を理解する. 12対の脳神経の名称と機能を理解する.		個人
15	交感神経・副交感神経		自律神経系の機能および構成を理解する.		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	グレイ解剖学原著第3版				
【参考書】	病気がみえる vol.7 脳・神経 改訂第2版				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		第6回, 第12回のテストも成績に反映しますので日頃から予習・復習を行ってください.			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学Ⅱ(2/2)		川崎 萌絵			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
内臓系(消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系)および内分泌系を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体で代表的な内臓の部位・名称、構造の特徴を説明できる ②消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系に属する器官の種類、機能を説明できる ③各器官の構造を立体的なイメージをもって理解する				知識・理解 考え抜く力 情報活用能力	
【履修上の注意】教科書を必ず使用しますので、忘れずに準備をしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	消化器系(1)		消化器の働き、種類と構造 口唇		個人
2	消化器系(2)		口腔、口腔腺、歯		個人
3	消化器系(3)		舌、咽頭、食道、胃		個人
4	消化器系(4)		小腸、大腸、肝臓と胆嚢		個人
5	消化器系(5)		膵臓と腹膜、嚥下		個人
6	呼吸器系(1)		呼吸器の種類と分類 外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭		個人
7	呼吸器系(2)		喉頭、気管と気管支		個人
8	呼吸器系(3)		肺、胸膜、縦隔		個人
9	泌尿器系(1)		泌尿器の種類と働き 腎臓の構造と働き		個人
10	泌尿器系(2)		尿管、膀胱、尿道		個人
11	生殖器系(1)		男性生殖器の構造、精巣と精巣上体 精管、精嚢、付属生殖器、陰茎と陰嚢		個人
12	生殖器系(2)		女性生殖器の構造、卵巣、卵管、子宮 膣、外陰部、会陰、子宮粘膜の周期的変化		個人
13	内分泌系(1)		内分泌系の働き		個人
14	内分泌系(2)		下垂体		個人
15	内分泌系(3)		甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、 精巣、卵巣、胸腺		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%	
【教科書】	グレイ解剖学原著第4版				
【参考書】	病気がみえる vol.7 脳・神経 改訂第2版				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業で学んだ解剖学のキーワードについての復習を行う			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生理学 I (1/2)		川崎 萌絵			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
人体を理解するための基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。はじめは、最も重要な「細胞」について解説。その後、それを踏まえた上で人間の身体の様々なはたらきを理解します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①細胞の基礎について説明することができる。 ②生体内での反応についてイメージを持って説明することができる。 ③生理学に興味をもつ				知識・理解 チームで働く力 論理的思考力 考え抜く力 前に踏み出す力	
【履修上の注意】 シラバスにて次回授業内容を確認し、予習・復習を慣行すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	生理学とは		生理学の概要につて 生物機能の緻密で複雑な仕組みについて理解する		個人
2	細胞の構造と機能		細胞について理解する 教科書p1-13		個人
3	グループワーク		細胞の構造と機能について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる		グループワーク
4	細胞の興奮と伝導 1		刺激と興奮と膜電位について理解する 教科書p14-22		個人
5	細胞の興奮と伝導 2		興奮発生の機序と興奮伝導について理解する 教科書p14-22		個人
6	グループワーク		細胞の興奮と伝導について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる		グループワーク
7	神経と筋 1		骨格筋の構成を学習し、筋収縮のメカニズムを学習する。 教科書p23-42		個人
8	神経と筋 2		筋収縮力学と筋のエネルギー発生について理解する 教科書p23-42		個人
9	神経と筋 3		様々な筋の収縮様式について理解する 教科書p23-42		個人
10	グループワーク		神経と筋について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる		グループワーク
11	神経機能 1		末梢神経・中枢神経の役割について学習する。 教科書p43-89		個人
12	神経機能 2		自律神経系の構成と作用について学習する。 教科書p43-89		個人
13	神経機能 3		感覚器と求心性神経の役割について学習する 教科書p43-89		個人
14	グループワーク		神経機能について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる		グループワーク
15	まとめ・復習		前期講義内容について確認する		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%	
【教科書】		Qシリーズ新生理学【電子版付】			
【参考書】		生体のしくみ標準テキスト 第3版			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		教科書を一読し、赤字で記載されているキーワードは理解・説明できるよう学習する			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生理学 I (2/2)		川崎 萌絵			川崎
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
<p>人体を理解するための基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。はじめは、最も重要な「細胞」について解説。その後、それを踏まえた上で人間の身体の様々なはたらきを理解します。</p>					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
<p>①細胞の基礎について説明することができる。          ②生体内での反応についてイメージを持って説明することができる。          ③生理学に興味をもつ</p>				<p>知識・理解          チームで働く力          論理的思考力          考え抜く力          前に踏み出す力</p>	
【履修上の注意】 シラバスにて次回授業内容を確認し、予習・復習を慣行すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	呼吸(肺)の生理1		呼吸とはなにかを学習する		個人
2	呼吸(肺)の生理2		ガスの拡散、ヘモグロビンの役割について説明できる		個人
3	呼吸(肺)の生理3		呼吸の周期性と肺換気量調節の仕組みについて説明できる		個人
4	循環(心臓・血液)の生理1		心臓・血管・リンパ管系の機能について理解する		個人
5	循環(心臓・血液)の生理2		血液の機能、免疫系のシステムについて理解する		個人
6	循環(心臓・血液)の生理3		全身の循環調節機構について理解する		個人
7	消化・吸収の生理1		消化器系の構造と機能について理解する		個人
8	消化・吸収の生理2		食物を摂取し消化・吸収・排泄するしくみを理解する		個人
9	栄養・代謝の生理1		栄養素の代謝過程、エネルギー産生のしくみを理解する		個人
10	栄養・代謝の生理2		三大栄養素の中間代謝とエネルギー代謝について説明できる		個人
11	泌尿(腎臓)の生理1		腎臓の構造と機能について理解する		個人
12	泌尿(腎臓)の生理2		尿の生成と排泄について理解する		個人
13	内分泌(ホルモン)の生理1		ホルモンの一般的性質について理解する		個人
14	内分泌(ホルモン)の生理2		内分泌の概念と作用機構について概要を理解する		個人
15	内分泌(ホルモン)の生理3		内分泌器官から分泌されるホルモンとその作用機構について理解する		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】				
【参考書】	生体のしくみ標準テキスト 第3版				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		教科書を一読し、赤字で記載されているキーワードは理解・説明できるよう学習する			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生理学実習		川崎・十文字・安中			一般 川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
様々な医療機器を用いて、実験的に心臓、筋肉、循環など生理学を学びます。自分自身あるいは同級生を対象として、実習を展開します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①筋エコー検査を実施し考察できる ②心電図・筋電図を解析し考察できる ③血圧や脈拍を測定し考察できる				知識・理解 論理的思考力 情報活用能力	
【履修上の注意】実習の際は実習着・実習靴を着用してください					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	循環(心拍・血圧)解析 (安中)		安静状態での血圧・心拍数を測定し、体位変換による変化を観察・測定する。神経性調節の仕組みを理解する。触診法および聴診法での血圧測定、橈骨動脈触知による脈拍測定の方法を習得する		個人・グループ
2					
3			キーワード: 触診法、聴診法、コロトコフ音		
4	心電図解析 (川崎)		標準12誘導心電図を記録し、心臓の電氣的興奮の発生を理解する 12誘導の方法、心電図の波形の意味を理解する		個人・グループ
5					
6			キーワード: P波、QRS波、T波、アイントーベンの三角形・移行帯		
7					
8	表面筋電解析 (添田)		表面筋電図の記録から筋収縮の生理学的なメカニズムを理解する		個人・グループ
9					
10			キーワード: 振幅、持続時間、位相		
11					
12	筋エコー(超音波)検査 (十文字)		筋エコー(超音波)検査の方法、画像の見方を理解し、筋のより詳細な病態を把握するための有用性について考察する		個人・グループ
13					
14			キーワード: 音波、プローブ、波長、ドプラ効果		
15					
期末試験	筆記試験		評価方法	レポート 100%	
【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各担当教員から指示があった予習課題・復習課題を実施すること			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学 I (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		荒木 芳一		病院 (理学療法士) 10年勤務	荒木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動学の概要および上肢の関節運動について解剖学的知識を含め説明できるようになる。主に、講義形式で講義を展開する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①身体運動の面と軸を理解し、各関節の運動作用を軸を起点に考えることができる(No1) ②関節の形状を理解し、運動の作用を考える際にも応用できるようになる(No2) ③筋収縮のメカニズム・収縮の様態を理解し、説明・実演できる ④上肢の運動機能について理解することができる。(No4～10) ⑤頸部体幹の運動機能について理解することができる(No12～15)				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	運動学とは、運動の面と軸		身体運動の面と軸について説明できるようになる		個人(ペア)
2	生体の構造 (関節の構造、機能、分類)		関節の構造、機能、分類について説明できる 腱および靭帯の構造と機能について説明できる		個人
3	生体の構造 (骨格筋の構造)		骨格筋の構造、筋の収縮様態について説明できる		個人
4	上肢帯と上肢の運動① 上肢帯に作用する筋		上肢帯・肩甲帯に付着する筋の起始・停止・ 神経支配(腕神経叢:骨モデル頸椎の神経について・脊柱につ いて)・作用について説明できる		個人・グループ
5	上肢帯と上肢の運動② 肩関節に作用する筋		肩関節の動きについて運動学的用語を用いて理解できる フォースカップル機構(肩甲骨・肩)		個人・グループ
6	上肢帯と上肢の運動③ 肩関節に作用する筋		肘関節を構成する骨と靭帯について説明できる 関節の特徴と運動方向の名称を説明できる(肘角・運搬角)		グループ
7	肘関節と前腕の運動① 肘関節の筋		肘関節を構成する骨と靭帯について説明できる 関節の特徴と運動方向の名称を説明できる(肘角・運搬角)		個人・グループ
8	手関節と手の運動① 手関節・手指の解剖		手関節および手指を構成している骨の名称を説明できる 解剖学的特徴を説明できる(手根管、骨の配列、神経な ど)		個人・グループ
9	手関節と手の運動② 手関節と手指の関節				個人・グループ
10	上肢の運動作用についての復習		上肢の運動をについて筋の起始・停止、作用を理解し説明できる		グループ
11	顔面および頭部の運動		顔面および頭部の解剖学的特徴を説明できる		個人
12	頸部～体幹の運動① 頸部の解剖		頸部の関節と運動について説明できる		個人・グループ
13	頸部～体幹の運動② 頸部の運動				個人・グループ
14	胸郭① 胸郭の解剖・働きについて		胸椎と胸郭の解剖的特長と関節について説明できる		個人・グループ
15	胸郭② 呼吸運動と筋について				個人・グループ
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90% 小テスト 10%	
【教科書】	身体運動学/MEDICAL VIEW				
【参考書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学/羊土社				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学(骨の名称、筋肉の名称・走行)			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	



【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学 I (2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		荒木 芳一		病院 (理学療法士) 10年勤務	荒木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動学の概要および下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。主に、講義形式で講義を展開する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①下肢の運動機能について理解することができる。(No1~9) ②姿勢・歩行について説明できるようになり、動作観察の一部ができるようになる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	下肢帯と下肢の運動	身体運動の面と軸について説明できるようになる			個人(ペア)
2	股関節の運動①	関節の構造、機能、分類について説明できる 腱および靭帯の構造と機能について説明できる			個人(ペア)
3	股関節の運動②	骨格筋の構造、筋の収縮様態について説明できる			個人(ペア)
4	膝関節の運動①	上肢帯・肩甲帯に付着する筋の起始・停止・神経支配・作用について説明できる			個人(ペア)
5	膝関節の運動②	肩関節の動きについて運動学的用語を用いて説明できる			個人(ペア)
6	足関節(足部)の運動①	肘関節を構成する骨と靭帯について説明できる 関節の特徴と運動方向の名称を説明できる (肘角・運搬角)			個人(ペア)
7	足関節(足部)の運動②				個人(ペア)
8	下肢運動まとめ	下肢の運動について理解できる			グループ
9	運動学習	運動技能とパフォーマンスについて説明できる			個人(ペア)
10	運動学習				個人(ペア)
11	姿勢①	重心(人体の重心測定、重心線)について説明できる			個人(ペア)
12	姿勢②	立位姿勢の安定性について説明できる			個人(ペア)
13	歩行①	正常歩行について説明する事ができる			個人(ペア)
14	歩行②	正常歩行と異常歩行の違いを述べる事ができる			個人(ペア)
15	まとめ	後期の講義内容について理解を深める			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 小テスト	90% 10%	
【教科書】	身体運動学/MEDICAL VIEW				
【参考書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学/羊土社 理学療法士のための筋力トレーニングと運動学習/羊土社				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学(骨の名称、筋肉の名称・走行)				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人体の構造と機能 ※ 実務経験のある教員の授業科目		川崎 萌絵			病院 (理学療法士) 8年勤務
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
人体がどのように成り立っているのかを学びます。人体を構成する各器官の基本的な構造(形態)とはたらき(機能)について学習し、解剖学・生理学・運動学の理解につながるイメージをもてるよう取り組みます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体で代表的な器官の部位・名称、構造の特徴を説明できる ②各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる ③各器官の構造を立体的なイメージをもって理解する				知識・理解 創造的思考力 考え抜く力	
【履修上の注意】 はさみ・のり・カッター・定規・筆記用具の準備をし講義に臨んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	人体の構造と機能の概要	人体の構造と機能について概要を理解する。 当日、資料を配布し説明します。			個人
2	脳の構造と機能 1	脳の構造と各器官のはたらきについて理解する 教科書 p 63-67、p 129-131			個人
3	脳の構造と機能 2	脳モデル作成を通して構造理解を深める 教科書 p 63-67、p 129-131			個人
4	脳の構造と機能 3	脳モデル作成を通して構造理解を深め・そのはたらきについて理解する 教科書 p 63-67、p 129-131			個人
5	神経伝導路の構造と機能 1	神経伝導路の構造とはたらきについて理解する 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
6	神経伝導路の構造と機能 2	神経伝導路モデル作成を通して、その構造について理解を深める 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
7	神経伝導路の構造と機能 3	神経伝導路モデル作成を通して、その構造について理解を深める 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
8	神経伝導路の構造と機能 4	神経伝導路モデル作成を通して、その構造について理解を深める 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
9	呼吸器の構造と機能 1	呼吸器の構造と換気のしくみについて理解する 教科書 p 89-91、p 153-159			個人
10	呼吸器の構造と機能 2	呼吸器モデル作成を通して構造・しくみの理解を深める 教科書 p 89-91、p 153-159			個人
11	呼吸器の構造と機能 3	呼吸器モデル作成を通して構造・しくみの理解を深める 教科書 p 89-91、p 153-159			個人
12	筋肉の構造と機能 1	筋の構造とはたらきについて理解する 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
13	筋肉の構造と機能 2	筋の運動モデル作成を通して構造・しくみを理解する 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
14	筋肉の構造と機能 3	筋の運動モデル作成を通して構造・しくみを理解する 教科書 p 81-82、p 160-167			個人
15	まとめ・復習	学習でポイントとなる部分について再度確認し、理解できる			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	100%	
【教科書】	生体のしくみ標準テキスト 第3版 脳を学ぶ 改訂第2版				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		課題達成に必要な知識の自己学習、成果物を利用した復習			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
公衆衛生学		佐久間 朋子		一般	佐久間
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
健康の維持・増進、疾病の予防に関して理解する。医療法や医療体制を学び、医療従事者として必要な知識を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保健統計から我が国の健康の現状が理解できる ②健康の維持増進について理解できる ③根拠のある医療について理解できる ④医療安全や医の倫理について理解できる ⑤医療にまつわる各種制度について理解できる				知識・理解 情報活用能力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	公衆衛生学概論	公衆衛生 歴史、健康の概念・WHOによる健康の定義、予防医学について、ヘルスプロモーション、行動変容について理解できる			個人
2	疫学とEBM	疫学の概念、疫学の指標、疫学研究のデザイン、EBMについて理解できる			個人
3	我が国の保健統計	人口構造の変化、保健統計の種類、人工静動態(国勢調査)と人口動態統計、死因統計、疾病統計について理解できる			個人
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権、インフォームドコンセント、患者の自己決定権、診療情報提供と患者情報の保護について理解できる			個人
5	診療情報と各種証明書	カルテ記録の方法や保存、各種証明書について理解できる			個人
6	終末期医療と死の概念	緩和ケア、全人的苦痛、レスパイトケア、グリーフケア、死の受容、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)、DNARについて理解できる			個人
7	医療の質と医療安全	病院機能の評価、クリニカルパス、医療事故、インシデントとアクシデント、医事紛争と医療訴訟について理解できる			個人
8	医療法と医療体制①	日本の医療体制の変遷、医療法、医療従事者の現状について理解できる			個人
9	医療法と医療体制②	地域医療と連携、救急医療、災害医療について理解できる			個人
10	社会保障と医療経済	社会保障と社会福祉、医療保険制度について理解できる			個人
11	地域保健 成人保険と健康増進	各種検診、健康増進法、健康日本21について理解できる			個人
12	高齢者保健 障がい者福祉、精神保健福祉	老人福祉法、後期高齢者医療確保法、介護保険、在宅医療について理解できる			個人
13	感染症対策①	感染経路、免疫、人獣共通感染症、感染症法、予防接種法とワクチンについて理解できる			個人
14	感染症対策②	院内感染対策、標準予防策について理解できる			個人
15	まとめ	まとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%	
【教科書】	公衆衛生がみえる メディックメディア社				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		教科書や配布資料の復習をしっかりと行ってください			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
リハビリテーション医学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		橋本 雅郎		病院 (理学療法士) 25年勤務	橋本
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
根拠に基づく理学療法の実践にあたり、リハビリテーションの評価や治療法など科学的基礎を広く学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① リハビリテーション医学の特殊性について説明できる。 ② 障害を分類し生活機能の評価について説明できる。 ③ 機能障害の評価方法について説明できる。 ④ 臨床で接する機会の多い疾患の評価方法について説明できる。 ⑤ リハビリテーションの治療法について説明できる。				知識・理解	
【履修上の注意】 教科書、配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	リハビリテーション医学総論		リハビリテーション医学の特殊性について学ぶ。 リハビリテーション医学の定義と対象について説明できる。		個人
2	医療モデルと診断・評価		障害の分類および診断と評価について学ぶ。 国際障害分類と生活機能評価について説明できる。		個人
3	運動障害の評価		運動障害の病態と評価について学ぶ。 筋力、可動域制限などの評価法について説明できる。		個人
4	呼吸・循環の評価		運動負荷上問題となる呼吸と循環の評価について学ぶ。 呼吸と循環の機能の評価法について説明できる。		個人
5	日常生活活動の評価		日常生活活動(動作)の評価について学ぶ。 日常生活活動(動作)の評価法について説明できる。		個人
6	運動療法と運動学習		リハビリテーション治療について学ぶ。 筋力増強や関節可動域改善などの治療法を説明できる。		個人
7	物理療法		物理的エネルギーを利用した治療法を学ぶ。 物理療法の種類とそれぞれの特徴について説明できる。		個人
8	脳血管障害		脳血管障害の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。		個人
9	神経・筋疾患		神経・筋疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。		個人
10	骨関節疾患		骨関節疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。		個人
11	呼吸・循環器疾患		呼吸・循環器疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。		個人
12	糖尿病、末梢循環不全		糖尿病および末梢循環不全の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。		個人
13	悪性腫瘍、熱傷		がんと熱傷のリハビリテーションについて学ぶ。 がんと熱傷のリハビリテーションについて説明できる。		個人
14	再生医療		再生医療とリハビリテーションの関わりについて学ぶ。 神経ネットワークの形成に関わるアプローチについて説明できる。		個人
15	スポーツ外傷、障害者スポーツ		スポーツに関わるリハビリテーションについて学ぶ。 スポーツ外傷、障害者スポーツへのアプローチについて説明できる。		個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 10%	課題の達成度	30%
【教科書】	現代リハビリテーション医学 改訂第4版 (金原出版)				
【参考書】	PTOTビジュアルテキストリハビリテーション医学 第1版 (羊土社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業のテーマごとに要点をまとめる。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療入門 ※ 実務経験のある教員の授業科目		橋本 雅郎			橋本 <small>病院 (理学療法士) 25年勤務</small>
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
医療専門職としてふさわしい礼儀や接遇態度を身につけるため、医療専門職の役割や求められる姿勢について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 医療専門職の役割について概要を説明できる。 ② 医療専門職に求められる能力について説明できる。 ③ 普段の学園生活において、患者に対峙した時と同様の立ち居振る舞いがとれる。 ④ 臨床前に身につけるべき医療倫理について説明できる。 ⑤ 医療者が備えるべき生涯学習能力について説明できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】 配布資料、ノートを持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	現代医療の現場		症例を通して人々の社会生活と医療の接点を考える。 現代医療の現場について概要を説明できる。		個人
2	医療専門職		医療専門職に求められる能力について知る。 全ての医療専門職に求められるものとは何かを説明できる。		個人
3	PT・OT		理学療法士の役割について理解する。 理学療法士の役割について説明できる。		個人
4	健康と疾病		心身の健康と疾病について学ぶ。 人の一生から見た健康と疾病について概要を説明できる。		個人
5	医療専門職の役割		医療専門職と患者との関わりについて学ぶ。 医療専門職がどのように患者に関わるのかを説明できる。		個人
6	医学の体系		医学の体系について学ぶ。 医学がどのように体系づけられているのかを説明できる。		個人
7	研究		研究の目的について学ぶ。 研究が何のためにあるのかについて説明できる。		個人
8	医療面接		医療専門職に必要なコミュニケーション・スキルを学ぶ。 理学療法士に求められるコミュニケーション技術が使える。		個人・ペア
9	医療専門職の姿勢・態度		臨床において求められる姿勢・態度について学ぶ。 患者に対峙した際と同様の立ち居振る舞いがとれる。		個人・ペア
10	臨床思考・治療		一連の理学療法の流れについて学ぶ。 評価から治療計画立案までの臨床推論について説明できる。		個人
11	生活支援技術		患者の日常生活活動と基本的動作について学ぶ。 日常生活活動と基本動作における評価について説明できる。		個人
12	医療倫理		倫理的医療を実践するために必要な能力について学ぶ。 臨床前に身につけるべき医療倫理について説明できる。		個人
13	医療安全		チーム医療と医療安全について学ぶ。 医療事故の要因、予防策、チーム医療について説明できる。		個人
14	医療システム		我が国の医療システムについて学ぶ。 医療システム、医療経済、医療関連法律の概要を説明できる。		個人
15	生涯学習		生涯学習の必要性について理解する。 医療者が備えるべき生涯学習能力について説明できる。		個人
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	50%	レポート 50%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	医療入門(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業のテーマごとに要点をまとめる。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

## 専門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎理学療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		橋本 雅郎		病院 (理学療法士) 25年勤務	橋本
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
理学療法士の仕事を理解するため、理学療法の基盤となる領域を幅広く学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 理学療法士の職域について説明できる。 ② 理学療法士養成校のカリキュラムについて説明できる。 ③ 理学療法士が行う各種検査測定や評価方法について説明できる。 ④ 理学療法と併用されることの多い主な手段について説明できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】 配布資料, ノートを持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	理学療法士とは		理学療法士の仕事, 現状, 養成校カリキュラムの概要を学ぶ。 理学療法士の仕事, 養成校のカリキュラムについて説明できる。		個人
2	到達目標		履修科目と成績評価, 卒業時の到達目標について理解する。 履修科目と学生評価, 卒業時の到達目標について説明できる。		個人
3	筋力		筋力検査との基礎を学ぶ。 筋力の徒手検査方法について説明できる。		個人・ペア
4	関節可動域		関節可動域検査の基礎を学ぶ。 関節可動域の検査方法について説明できる。		個人・ペア
5	形態測定		形態測定の基礎を学ぶ。 四肢長や周径の測定方法について説明できる。		個人・ペア
6	反射		反射検査の基礎を学ぶ。 伸張反射の検査方法について説明できる。		個人・ペア
7	バランス		バランス検査の基礎を学ぶ。 平衡機能の検査方法について説明できる。		個人・ペア
8	疼痛		疼痛の評価の基礎を学ぶ。 疼痛の評価方法について説明できる。		個人・ペア
9	感覚		感覚検査の基礎を学ぶ。 感覚の検査方法について説明できる。		個人・ペア
10	運動麻痺		運動麻痺検査の基礎を学ぶ。 運動麻痺の評価方法について説明できる。		個人・ペア
11	運動失調		運動失調検査の基礎を学ぶ。 小脳性運動失調の検査方法について説明できる。		個人・ペア
12	歩行能力		歩行能力の評価の基礎を学ぶ。 歩行能力の評価方法について説明できる。		個人・ペア
13	義肢・装具		義肢と装具の種類と使用目的について学ぶ。 義肢と装具の種類と使用目的について説明できる。		個人
14	日常生活活動(ADL)		ADLの評価の基礎を学ぶ。 ADLの評価方法について説明できる。		個人
15	物理療法		理学療法に併用される物理療法について学ぶ。 物理療法の種類と使用目的について説明できる。		個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	受講態度 10%	課題の達成度 30%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	PTスタートガイド 基礎理学療法概論 (メジカルビュー社) 現代リハビリテーション医学 改訂第4版 (金原出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各授業のテーマごとに要点をまとめる。				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎理学療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		橋本 雅郎		病院 (理学療法士) 25年勤務	橋本
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
理学療法士の仕事を理解するため、理学療法の基盤となる領域を幅広く学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 理学療法の主な対象について説明できる。 ② 理学療法の主な方法について説明できる。 ③ 疾病と障害の分類について説明できる。 ④ 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ⑤ 理学療法として身に付けるべき技能について説明できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】 配布資料、ノートを持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	脳血管障害		脳血管障害患者のリハビリテーションについて概要を学ぶ。 脳血管障害による片麻痺のリハビリテーションについて説明できる。		個人・ペア
2	パーキンソン病・神経・筋疾患		パーキンソン病、神経・筋疾患について概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人・ペア
3	認知症		認知症について概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人・ペア
4	小児疾患(脳性麻痺)		小児疾患(脳性麻痺)について概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人
5	脊髄損傷		脊髄損傷について概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人
6	切断・義肢		四肢切断者のリハビリテーションについて概要を学ぶ。 切断者の評価とリハビリテーションについて説明できる。		個人
7	変形性関節症		変形性関節症などの整形外科疾患の概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人
8	スポーツ障害		代表的なスポーツ障害のリハビリテーションについて学ぶ。 スポーツ障害のリハビリテーションについて説明できる。		個人
9	呼吸・循環器疾患		主な呼吸・循環器疾患について概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人
10	糖尿病		糖尿病について概要を学ぶ。 疾患の症候やリハビリテーションについて説明できる。		個人
11	老年症候群		老年症候群について概要を学ぶ。 フレイルとサルコペニアの概念について説明できる。		個人
12	がん		がんについて概要を学ぶ。 がん患者に対する緩和ケアについて説明できる。		個人
13	疾病と障害の分類		理学療法士による障害の見方について学ぶ。 ICFによる問題点の抽出法について説明できる。		個人
14	地域包括ケアと理学療法		地域包括ケアおよび高齢社会の現状を学ぶ。 地域包括ケアとは何か、高齢社会の現状について説明できる。		個人
15	日本と世界の理学療法		日本と世界の理学療法の現状と教育制度を学ぶ。 理学療法士として身に付けるべき技能について説明できる。		個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	60% 10%	課題の達成度 30%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	PTスタートガイド 基礎理学療法概論 (メジカルビュー社) 現代リハビリテーション医学 改訂第4版 (金原出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各授業のテーマごとに要点をまとめる。				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		



【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法学演習 I ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間 朋子		大学病院等 (理学療法士) 18年勤務	佐久間
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
理学療法について幅広く学び、理学療法士に必要な技術や能力を理解する。グループワークを通じ、コミュニケーション能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①解剖学的知識を用いて、初歩的な理学療法評価を学ぶ ②ADLや基本動作、動作介助などについて理解する ③代表的な義肢装具について理解する ④スポーツ障害の応急処置ができる(RICE処置)				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	触診(上肢・下肢)		上肢の主要な骨・筋肉の触診ができる		グループ
2	触診(上肢・下肢)		下肢の主要な骨・筋肉の触診ができる		グループ
3	肢長・周径の測定(上肢・下肢)		上肢の触診をもとに、肢長・周径の測定ができる		グループ
4	肢長・周径の測定(上肢・下肢)		下肢の触診をもとに、肢長・周径の測定ができる		グループ
5	移動支援(車いす)		車いすの仕組みを理解し、安全に移動ができる		グループ
6	移動支援(車いす)		車いすの仕組みを理解し、安全な移動支援ができる		グループ
7	基本動作と介助方法		寝返り・起き上がり・立ち上がりなどの基本動作を理解し安全な介助方法を理解できる		グループ
8	基本動作と介助方法		移乗動作・歩行動作などの基本動作を理解し安全に介助できる		グループ
9	義肢について		下肢の義肢について使用目的や名前を理解できる		グループ
10	義肢について		下肢の代表的な義肢について特徴を理解できる		グループ
11	装具について		下肢の代表的な装具について使用目的や名前を理解できる		グループ
12	装具について		下肢の装具について特徴を理解できる		グループ
13	スポーツ傷害について(RICE処置)		スポーツ傷害について理解することが出来る 応急処置について理解できる		グループ
14	スポーツ傷害について(RICE処置)		RICE処置について理解することが出来る RICE処置が実施できる		グループ
15	まとめ		まとめ		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	レポート 80%	受講態度 20%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		配布資料の復習をしっかりと行ってください			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動療法演習(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一		病院 (理学療法士) 8年勤務	安中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	演習・実習	2
【授業の概要・目的】					
運動療法は理学療法士の仕事の中核をなすものである。この科目では、基本的な運動療法の知識と技術を身につけることを目的とする。また、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や、注意点なども習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①運動療法の概要について理解し、説明できる。 ②対象者の状況に応じた運動療法を選択することができる。 ③各運動療法の目的・効果を対象者に説明し、実施できる。 ④運動療法を行う際のリスクについて理解し、配慮しながら実施できる。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験	
【履修上の注意】 講義の中で実技試験や発表会を行い、発言を求められることがあります。これらの内容も成績に反映されます。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	運動療法総論		運動療法の種類、目的、効果、禁忌などを学ぶ、 運動療法を行う上で必要な標準予防策を身につける。		グループ
2	関節可動域制限に対する運動療法 関節可動域運動(上肢)		上肢・下肢・体幹の各関節に対して関節可動域運動を行う。 人の身体を動かす際の抵抗感(エンドフィール)を感じる。 相手の身体を触る際の注意点などを理解し、実施できる。		グループ
3	関節可動域制限に対する運動療法 関節可動域運動(上肢)				グループ
4	関節可動域制限に対する運動療法 関節可動域運動(下肢・体幹)				グループ
5	関節可動域制限に対する運動療法 関節可動域運動(下肢・体幹)				グループ
6	関節可動域制限に対する運動療法 ストレッチング(上肢)				グループ
7	関節可動域制限に対する運動療法 ストレッチング(上肢)		上肢・下肢・体幹の各筋に対してストレッチングを行う。 ストレッチングの目的、効果、種類について理解する。 安全なストレッチングの方法を理解し、実施できる。		グループ
8	関節可動域制限に対する運動療法 ストレッチング(下肢)				グループ
9	関節可動域制限に対する運動療法 ストレッチング(下肢)				グループ
10	関節可動域制限に対する運動療法 ストレッチング(体幹・頸部)				グループ
11	関節可動域制限に対する運動療法 ストレッチング(体幹・頸部)				グループ
12	協調運動障害に対する運動療法 バランストレーニング		協調運動障害に対してバランストレーニングを行う。 バランストレーニングの目的、効果について理解する。 バランスを構成する要素を理解し、障害の程度に応じた バランストレーニングを考案することができる。		グループ
13	協調運動障害に対する運動療法 バランストレーニング				グループ
14	協調運動障害に対する運動療法 フレンケル体操				グループ
15	まとめ		前期で学習した内容について実技試験を行う。		グループ
期末試験	実施しない		評価方法	受講態度 60% 発表会の結果 20%	実技試験 20%
【教科書】	理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学				
【参考書】	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動療法演習(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一		病院 (理学療法士) 8年勤務	安中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	演習・実習	2
【授業の概要・目的】					
運動療法は理学療法士の仕事の中核をなすものである。この科目では、基本的な運動療法の知識と技術を身につけることを目的とする。また、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や、注意点なども習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①運動療法の概要について理解し、説明できる。 ②対象者の状況に応じた運動療法を選択することができる。 ③各運動療法の目的・効果を対象者に説明し、実施できる。 ④運動療法を行う際のリスクについて理解し、配慮しながら実施できる。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験	
【履修上の注意】 講義の中で実技試験や発表会を行い、発言を求められることがあります。これらの内容も成績に反映されます。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	筋力低下に対する運動療法		上肢・下肢・体幹の筋力トレーニングを行う。 筋収縮様式、負荷量、環境などを変化させ、 目的に応じた筋力トレーニングを考案できる。		グループ
2					グループ
3					グループ
4					グループ
5					グループ
6					グループ
7					グループ
8					グループ
9	持久力低下に対する運動療法 (全身持久力トレーニング)		テッドミルや自転車エルゴメーターを使用して 持久力トレーニングを行う。 持久力トレーニングの効果や目的を理解し、説明できる。 持久力向上に効果的な負荷量を設定できる。		グループ
10					グループ
11					グループ
12					グループ
13	歩行障害に対する運動療法		歩行障害に対して、歩行介助の練習を行う。 松葉杖やT字杖など基本的な歩行補助具の 使用方法を理解し、歩行練習を行う。		グループ
14					グループ
15	まとめ		後期で学習した内容について実技試験を行う。		グループ
期末試験	実施しない		評価方法	受講態度 60% 発表会の結果 20%	実技試験 20%
【教科書】	理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学				
【参考書】	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】	教員室にて	